

不確実な時代の事業計画立案の進め方

インテグラート株式会社代表取締役社長 小川 康



実学習時間

3h

難易度

★★★★

受講料

¥8,250

税込

学習目標と狙い

不確実な時代に、事業計画の達成度を高めるために①事業計画が決定されるまでのプロセスを改善②事業計画の外れにタイムリーに対応する③成功と失敗から学習する方法を学習する。

新入社員

若手社員

中堅社員

管理職

上級管理職

経営職



コロナ渦の先行きが見通せないような時代で、どのように事業計画を立てて、それをどのように達成していくべきか、その考え方と実践方法を学ぶことができました。

学習プログラム

PDU

3

- 第1回 不確実な事業の課題を企業事例から考える
 ー不確実な事業に共通する課題
 ー事例紹介（大阪ガス株式会社、伊藤忠商事株式会社）
- 第2回 仮説指向計画法（DDP: Discovery-Driven Planning）
 ー仮説をめいかくにする「逆損益計算法」：我々は何に賭けているのか
 ー仮説思考計算法の実践に必要な業務プロセス
- 第3回 仮説を洗い出し、管理するツール
 ー仮説を洗い出すプロセス
 ー効果の高い定量分析（感度分析、シナリオ分析、リスク分析）

【概要】

主に研究開発、新規事業、設備投資、M&Aといった戦略投資が企業の不確実性として捉えられていましたが、テクノロジーの進化や気象変動、感染症等の影響によりビジネスを取り巻く環境は予測困難な時代に入りました。このような環境下で、企業はどのように事業計画の達成度を高めていけばよいのでしょうか？ また経営陣は、業績予測の精度をどのように高め、計画や意思決定につなげていけばよいのでしょうか？

不確実なビジネス環境のなか事業計画に関する課題は、認識されているにも関わらず、解決・改善されていないケースが多く見受けられます。例えば、前提や根拠が示されない売上・利益予測。そして決定後は現場任せでいつの間にか失敗している事業計画などです。

本講座では、事業の成功のために必要な仮説を明確にし、仮説を確かめながら進めていく方法や成功と失敗からの学習法について解説します。

受講期間	講義	理解度テスト	演習	チャメール	修了証	修了アンケート	制作年
6ヶ月	3回(平均60分)	あり (3回)	なし	あり	あり	なし	2020



10709